

2026年 いざ世界遺産登録へ！

「飛鳥・藤原の宮都」の構成資産を紹介します

●石舞台古墳（いしぶたいこふん）

中国の影響を受けて造営された、一辺約50mの方墳です。埋葬施設は巨石を積み上げて造られており、同時期のものとしては国内最大級の横穴式石室です。外堤の下層からは6世紀後半の小さな古墳が7基以上見つっています。石舞台古墳はこれらを破壊して築造されたことから、当時絶大な権力を持っていた人物の墳墓であると考えられます。

また、墳丘は中国の皇帝陵の影響を受けて方墳となった一方で、埋葬施設には横穴式石室や石棺・周溝など、日本の伝統的な墓制を踏襲しています。このことは、新たに伝来した造墓思想と日本の伝統的な葬法との融合を表しています。



▲石舞台古墳復元イメージ
(提供：株式会社アスカラボ)



▲石材運搬イメージ
(提供：株式会社アスカラボ)



▲『西国三十三所名所圖會』
(北海道大学図書館所蔵
出典：国書データベース)

●牽牛子塚古墳（けんごしづかこふん）

中国思想の影響を受けて、天皇の絶対的権威を表すために日本独自に創り出された八角墳です。埋葬施設は、巨大な二上山凝灰岩を削り貫いて造った二つの墓室からなる横口式石槨です。4カ所に飾金具が付いていたと考えられる板石を内側の閉塞石とし、その外側にもう1枚の閉塞石を置いて石室内が閉ざされていました。横口式石槨は百済の影響を受けていますが、巨石を削り貫いて墳墓を造った石槨は、東アジアの他の場所では例がない日本独自の形態です。

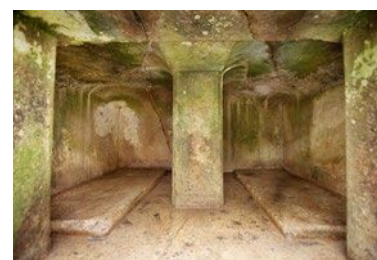
発掘調査では、夾紵棺（麻布を漆で貼り重ねた棺）の破片や七宝製亀甲形飾金具、ガラス玉、人骨などが出土しました。八角墳と夾紵棺の採用は、この古墳が当時の最高権力者の墳墓であったことを示しています。



▲七宝製亀甲形飾金具
(提供：奈良文化財研究所)



▲夾紵棺片
(提供：奈良県立橿原考古学
研究所附属博物館)



▲二つの墓室を持つ横口式石槨